

甲骨文の地名

島 邦 男

甲骨卜辞の地名は五三八を算へることが出来る。このうちその地名の方位と他の地名との関聯が考へられるもの一〇五について、地名の位置を推測したものがこの地図である。この推測に当つては、卜辞所見の商と亳との位置を決定して之を定點とし、この間が二日行程であるから、これを行程距離の基準となし、某地が定點或は既推定地と何日行程の距離に在り、且つ何れの方向に在るかによつてその位置を定めたのである。この行程距離とその方向との推定は必ずしも容易ではなく、一々証明が件つてゐる。卜辞の地名の或るものは方向が解るが距離が不明、或るものは距離が解るが方向が不明のものがあり、前者は関聯する他の地名との関係から大体の位置を推測出来るが、後者は姑く後考に待つ事にした。又或る方向に一句毎に地名が記されてゐるものがあるが、これも亦大体の位置を記するに止めた。

これらの地名は全地名の五分の一に過ぎないが、殷の支配してゐた地域の大体を知ることが出来るのであつて、これによれば東は齊の臨淄、西は河東の黄河、南は淮水、北は冀南の南宮、この範圍が殷王の馭馳し得た地域である。

卜辞の地名の考釈はその字が後世の何字に当るかから出發して、古書の地名を案じて之を卜辞地名の位置と推定する方法が在来採られて来たが、この方法は仮令地名の字釈に成功しても、古書の地名の位置を直ちに卜辞の地名の位置とすることは甚だ危険であつて、卜辞の地名は地名相互間の関聯からその位置が推定され、古書の地名を勘案してその地名の字を何字と釈すべきかが定まるのであつて、この地図は斯かる作業の基礎を提供するものである。

地図上の矢標は卜辞に於いて某地に行つた方向、地名間の数字は行程日数である。

甲骨文の地名

